

教育活動への取り組み（要約）	自己評価（右端は自己採点・5段階）	
<p>1 学校運営</p> <p>ア 経営会議、主幹会議を効率的に運営し、教育活動の改善計画を策定した。</p> <p>イ 生徒の現状に即した教育課程の改編を図り、特に、基礎学力向上のための普通教科の必登録化と、キャリア科目のスリム化を図った。</p> <p>ウ 教育課題に対応したPTを組織し、解決案を主幹会議に提言させた。</p> <p>エ 本校に対する都民のニーズや、次期学習指導要領改訂を見越した学校改革を積極的に推進した。</p> <p>2 学習指導</p> <p>ア 少人数習熟度別指導や誉めて伸ばす指導を基本に、生徒の「自発学習」を促し、学力を伸ばす。</p> <p>○ 学習到達目標を明確にし、小さな達成感を積み重ねて自己効力感を育てる。</p> <p>○ 毎回の小テストや家庭学習の工夫により、学習習慣を身に付けさせるなど、計画的に生徒に負荷をかける。</p> <p>○ 基礎力診断テスト結果を活用し、個々の生徒の学力の到達度を明らかにして指導に役立てる。</p> <p>イ 授業の質を向上させる。</p> <p>○ 言語活動を導入し、生徒を積極的に授業に参加させる。</p> <p>○ ICT機器を使った授業展開に挑戦する（年最低1回）。</p> <p>○ 生徒による授業評価を行い、授業改善策を各教員でまとめる。</p> <p>ウ 新たな教育活動の導入</p> <p>○ 土日・祝日や長期休業日に「社会体実習」を実施し、教室で学んだ知識や内容の定着と深化を図る。</p>	<p>1 学校運営</p> <p>以下の改善計画を達成した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 言語活動を基礎としたアクティブ・ラーニングの導入を開始した（アクティブ・ラーニング推進校に指定された）。 教育課程を見直し、「日本の伝統文化」の自由選択科目化と「茶道」の新規開講等を準備した。これによって2年次の自由選択講座の枠が広がるとともに、伝統文化関係の科目の重点化を図ることができた。 2年次での「国語演習」・「数学A」・「英語表現」（各2単位）を必登録化し、上級学校進学に向けた教育課程に移行することができた。 学校設定科目検討委員会を立ち上げ、「産業社会と人間」の分割履修、「コーピング」の減単位など、キャリア科目のスリム化を実現した。また、平成29年度以降の入学生が履修するキャリア科目の指導計画を立案した。 授業日数確保と学校行事の精選の観点から、平成30年度から3学期制に移行する。 <p>2 学習指導</p> <p>ア わかる授業を目標に、個に応じた丁寧な少人数習熟度別指導を実施し、良好な結果を得た。学校評価アンケートの結果は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「基礎学力をつけるために、授業以外にも自分なりに学習している。」 Yes…57.0%（前年比-0.7%） 「授業では教材や教え方を工夫し、熱心に指導している。」 Yes…83.0%（前年比+0.8%） 「選択科目は、興味や関心を持てる科目である。」 Yes…89.5%（前年比+2.4%） <p>イ 授業の質の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> アクティブ・ラーニング推進校の指定を受け、他府県の先進校を積極的に視察するとともに、有識者を校内研修の講師に招き、「生徒に何を教えるか」から「生徒に何を考えさせるのか」に授業の質的転換を図った。 タブレットパソコンをはじめ、ICT機器を活用したことにより授業が活性化し、特に数学においては高い成果を実現した。 英語多読の授業やJETの活用により、英語学習に積極的な生徒が増えた。また冬季休業中に、希望生徒を対象にEnglish Campを実施した。 生徒の授業出席率は73.4%であった（前年比+2.1%）。 <p>ウ 新たな教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語科の「JICA 地球広場」の見学をはじめ、8科目で「社会体験実習」を18回実施し、延 	<p>5</p> <p>5</p>

教育活動への取り組み（要約）	自己評価（右端は自己採点・5段階）	
<p>○ 土日・祝日や長期休業日に資格取得や検定試験受験を目的にした「検定対策講座」を実施する。</p> <p>3 進路指導</p> <p>ア 組織的なキャリア教育により、進路決定率を向上させる。</p> <p>イ キャリア教育を通して「社会的な自立」につなげる。</p> <p>ウ 「社会的な自立」を実現する指導を行う。ベネッセや若者サポートステーション等の外部機関と積極的に連携する。</p> <p>エ 学校独自に上級学校訪問を実施し、生徒の進路意識を醸成する。</p> <p>4-1 生徒指導（学校生活）</p> <p>落ち着いた学校生活を保障する。</p> <p>ア 安心安全な学校を作る。</p> <p>○ 生命と人権の尊重、自他のチャレンジ尊重</p> <p>イ 落ち着いた学校生活をおくらせる。</p> <p>○ 校服の正しい着用、「笑顔で挨拶」の励行</p> <p>ウ きれいな学校環境を守る。</p> <p>○ 校内清掃の徹底、ゴミ分別を発展させる。</p> <p>4-2 生徒指導（特別活動・部活動）</p> <p>ア みのり杯、稔祭等の学校行事を充実する。</p> <p>イ 生徒の自主性を育てる生徒会活動を充実する。</p> <p>ウ 生徒の個性を引き出す部活動を活性化する。</p> <p>エ 生徒の生活集団の形勢を促す。</p>	<p>べ 127名の生徒が参加し、様々な体験活動を行い学習を深めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「検定対策講座」を6講座実施し、延べ120名の生徒が受講した。この結果、漢検2級5名、数検2級1名、英検2級1名などの難易度の高い検定試験合格を出すことができた。 土日・祝日や長期休業日に「みのりゼミ」を開講し、10人未満の生徒を対象に、日頃の授業よりも高いレベルの教材を用い、深く考え追究する学習を実施した。数学、日本史、世界史、公民、数学、化学、物理、英語の各講座を開講し、大学受験に備えた内容を取り扱うとともに、授業に先行してアクティブ・ラーニングの手法を先駆的に取り入れた。 今年度初めて、夏季休業中には数学の勉強合宿、冬季休業中には英語の勉強合宿（English Camp）を実施した。 <p>3 進路指導</p> <p>ア 3月31日現在の進路決定率は、84%。</p> <p>○ 現役合格者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早慶上智 1名 ・MARCH 3名 ・日東駒専 6名 <p>○ 就職内定者 8名</p> <p>イ 意欲向上するキャリア教育を展開</p> <p>○ 「キャリア通信」を11回発行</p> <p>○ 上級学校見学会を3回実施し、延べ87名の生徒が参加した。</p> <p>ウ 関係機関と連携した進路指導</p> <p>○ 地域の若者サポートステーションと連携し、校内で相談活動を実施して、複数の生徒を進路実現に結びつけた。</p> <p>4-1 生徒指導（学校生活）</p> <p>ア 「他人のチャレンジを邪魔しない」、「安心・安全の学校」を合言葉に、落ち着いた雰囲気のある学校づくりを推進した。特別指導の発生件数は、8件に抑えることができた。</p> <p>イ SNSの利用について指導を徹底した結果、トラブルの発生を防ぐことができた。</p> <p>ウ きれいな学校作りとして、生徒主導によるゴミ分別制度を実施した。</p> <p>4-2 生徒指導（特別活動・部活動）</p> <p>ア みのり杯（体育祭）を全校規模（午前は1・2年次、午後は3・4年次）で実施した。また稔祭（文化祭）の来校者は、前年比-7.5%であった（荒天のため）。</p> <p>イ 生徒会や行事委員会が自発的・計画的に運営されるようになった。</p> <p>ウ 部活動参加率は35%に微増した。</p>	<p>4</p> <p>4</p>

教育活動への取り組み（要約）	自己評価（右端は自己採点・5段階）	
<p>4-3 生徒指導（防災教育） ア 災害に備えた校内体制（防災委員会） イ 震災を想定した防災訓練（年4回） ウ 災害に対応できる備蓄（企画室、総務部）</p> <p>5 保健指導（心と体の健康づくり） ア カウンセリング委員会を中心に相談機能（SC、みのりの場等）の連携を強化。 イ 情報交換会における生徒情報を活かし、特別支援教育コーディネーターを中心に支援体制を構築する。 ウ 学校保健計画、学校安全計画を立案し実行。</p> <p>6 募集・広報活動 ア 個別相談、学校説明会、募集要項説明会を通して受検者や保護者の学校理解を深化する。 イ 学校PRを再構築し、応募倍率をアップする。 ウ 学校ホームページを頻繁に更新する。</p> <p>7 地域交流、保護者 ア 地域小中学校、町会・地区委員会等、地域との連携を強化する。 イ ボランティア活動を推奨し、地域と交流を推進する。</p>	<p>エ パラリンピックのメダリストを招いてゴールボールを生徒に体験させるなど、東京2020に向けた意識付けを行った。</p> <p>4-3 生徒指導（防災教育） ア 携帯型防災ポケットメモを作成配布した。 イ 震災を想定した防災訓練を年4回実施した。 ウ 部活動単位で、地域の防災訓練に参加した。</p> <p>5 保健指導（心と体の健康づくり） ア 延べ423名の生徒がSC、みのりの場を利用するなど、保健相談機能が充実した。 イ 保健室来室者統計を毎月発行し、生徒状況を全校で把握した。また自立支援チームの取扱いケース数は246件にのぼり、大きな貢献を果たした。 ウ 体罰根絶といじめの総合対策に基づき、アンケート結果を重視して生徒へのヒアリングを徹底した。</p> <p>6 募集・広報活動 ア 「Minor Journal」や「みのりQ&A」を作成するなど、募集対策を充実させた。 イ 学校公開と体験入学を各1回ずつ増やすなど、募集対策を拡充したところ、応募倍率が1.76倍に増えた（前年比0.08倍増）。 ウ ホームページを約250回更新するとともに、内容の充実を図った（Minor Weekly、みのりQ&A、稔ヶ丘がめざす学びの質など）。 エ 体験入部を実施した。（軟式野球部、バスケットボール部、サッカー部、陸上競技部）</p> <p>7 地域交流、保護者 ア 他府県の教委や学校、地区委員会等の来校が増え、教育活動の公開が進んだ。 イ ボランティア活動推進校の指定を受けるとともに、ボランティア部が本校生徒のボランティア活動をコーディネートし、延べ20回以上のボランティア活動を行った結果、東京都教育委員会から児童・生徒表彰を受けることができた</p>	<p>4</p> <p>5</p> <p>4</p>

次年度の課題

- 1 授業や学校行事の工夫・改善を通じて、生徒の授業出席率の向上を図る。
 - ・73.4%であった授業出席率を80%台に向上させる。
- 2 都教育委員会のアクティブ・ラーニング推進校の指定を受けたことから、各教科・科目の見方や考え方を追究する授業の実践を継続する。また、英語教育を中心にグローバル教育を推進する。
- 3 ワンランク上の教材を用いる「みのりゼミ」や「勉強合宿」を継続・拡大し、生徒の多様な教育ニーズに呼応する。
- 4 3年次の学校設定科目（福祉活動）の内容を再検討し、精選を図る。
 - ・生徒の実態にあった体験的な学習を積極的に導入する。
 - ・福祉関係への進学・就職に対応できるよう内容を精選する。
- 5 生徒の興味・関心や進路に応じた、新たな自由選択科目の設置について検討する。
- 6 都教育委員会のボランティア活動推進校の指定を受けたことから、マイレージに対応したさらなるボランティア活動の拡充を図る。
- 7 Ⅲ部の増学級に備え、Ⅲ部生の授業選択に柔軟な対応をとる。
 - ・3・4時限目からの授業選択を可能にし、夜間部のイメージを払拭する。
 - ・講座増に備えて、ゼミ室等を整備する。
- 8 今後のⅢ部の増学級に備え、施設・設備を整備・充実させるとともに、校内の生徒の居場所づくりを推進する。
 - ・HR教室がないことから、授業の空き時間等の生徒の居場所づくりが急務である。
- 9 心と体の健康管理について、カウンセリング委員会を中心に情報共有化を進める。
 - ・自立支援チームと連携して、生徒の授業出席率の向上を図る。
 - ・みのりの場の利用を柔軟に運用し、長期欠席者の解消に努める。
- 10 引き続き中途退学者を減らし、卒業者を増やしていく。
 - ・目標 中退率 5%未満、卒業者 毎年180人
 - ・ピアサポート（生徒同士の支え合い）の導入により、中退率を減少させる。
 - ・社会体験活動による単位認定（マイレージ）の積極的な運用により、単位修得の機会を増やす。
- 11 アクティブ・ラーニングをはじめ、喫緊の教育課題に関係する校内研修を充実させ、生徒の実態に応じた柔軟な教育が継続的に行われるようにする。
- 12 大規模な地震への対策として、地域と連携した防災訓練や防災教育を充実させる。